



但馬牛繁殖農家
田中一馬さん
村岡町



但馬牛は家族の一員として、愛情をかけて育てられる。

「牛、牛」と聞こえる人なつこ
い但馬牛の鳴き声。その牛舎で、子
牛にブラッシングする青年がいる。兵
庫県三田市出身の田中一馬さんは、
今年5月に独立したばかりの新米畜
産農家。牛飼いとして生活していく
には、最低30頭の牛が必要とされる
中、現在、彼の牛舎にはまだ8頭の
牛しかいない。それでも、県や町、村
の人々の援助を受け、日本一の牛飼
いになることを夢見て頑張っている。
そんな彼が、村岡町丸味を訪れた
のは2年前の5月。父親の故郷でも
あるこの町で牛飼いを体験したいと、
地元の畜産農家・森脇薫明さんの下

熱き牛への情熱 目指せ! 夢は... 「日本一の牛飼い」

「確かに牛飼いの仕事は、体力的
にかなりきついです。でも、自分は心
底牛が好きだから、辞めようと思っ
たことは一度もないですね。自分が
育てた牛の成長していく過程を見る
のは、本当に楽しいですよ。」
研修から約半年が過ぎた頃、大学
院を中退して、村岡町に永住するこ
とに決めた。それは、牛飼いになり
たいという気持ちが本物になった瞬
間だった。そして、今、畜産農家とし
ての一步を踏み出している。
独立してからも気を付けているこ
とは、「牛をよく観る」という師匠・
森脇さんの教え。
「毎日観ることはもちろん、でき
るだけ牛を観る時間を増やそうと
心がけています。牛のどこかを観れ
ば、一目で体調が分かるものではあ
りません。毎日観ることで、昨日と
の違いが見えてくるんです。」
今後は学生時代に勉強したことを
活かして牛のふんを使うたい肥づく
りにも力をいれていきたいとのこと
と、さらには「そのたい肥を使った米、
野菜作りにも挑戦したいと、やりた
いことは尽きない。」
「若い自分が独立できたのも、但
馬の人のあたたかさがあったから。
自分が成功することが恩返しにな
る」と最後に田中さん。ブラシを動
かす手に一段と力強さを感じた。

写真やイラストなど、
フルカラー印刷でお届け。
お好みの印刷品を、
お好みの価格でお届け。
お申し込みは、
お電話またはメールでお問い合わせください。

街を彩る。

従来のイメージを打破し、伝える多様な表現は、
今、街がメディアに変わる。

カラー印刷

冊子・パンフレット
ポスター・チラシ
名刺・封筒
封筒
名刺
封筒

印刷の品質を重視し、コストを抑える。

Quick Quality Cost
岩見印刷株式会社

【本社・印刷工場】〒650-0001 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1-1 TEL.078-64-1200 (F)
 【支社・印刷工場】〒650-0001 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1-1 TEL.078-64-1200 (F)
 【支社・印刷工場】〒650-0001 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1-1 TEL.078-64-1200 (F)
 【支社・印刷工場】〒650-0001 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1-1 TEL.078-64-1200 (F)
 【支社・印刷工場】〒650-0001 兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1-1 TEL.078-64-1200 (F)

大わらじ奉納

謎多き但馬の奇祭：
杉の大木にまつられた
大わらじと大ぞうり

技術のいるわらじ作りは、村の長老から若い衆へ伝授されていく



大ぞうりを飾る。一説にはこのような巨大な履物を履く人間がいることを示して、悪霊を驚かせるためだと言い伝えられている。

また、履物をまつることから、足の病気を治すのにご利益があることでも有名である。当日

峠道の入口に突如として現れる、約1.5メートルの大わらじと大ぞうり。日高町田ノ口区に伝わる、大わらじ奉納は、毎年1月の第2月曜日に、村人が大わらじと大ぞうりを片方ずつ作り、賽の神に奉納する村の伝統行事である。

賽の神は、道を遮り外部からの悪霊の侵入を防ぐ、「道切り」の神として、古くから日本各地で、人々に崇拜されてきた。

一般的にはじめ縄をまつることが多いが、ここ田ノ口では大わらじと



日高町田ノ口区の「大わらじ奉納」は、毎年、1月の成人の日に行われる。平成16年1月12日(月)当日は、下半身の病氣、厄除けとしてだけでなく、家内安全・交通安全、小児の守護神として、参拝に訪れる人も多い。

はご神体の岩の上に、小石を奉納していく人も多い。また村には、大わらじの前では絶対にこけてはいけなという迷信も残っているそうだ。

大わらじと大ぞうり作りは、奉納当日の朝8時に、各村人が稲わらを持ち寄って始まる。

芯綱を元にわらを編み込んでいく作業は、体力と技術、そして根気が必要で、完成するまでに約4、5時間かかる。

またその巨大さから、わらじ全体の姿がとらえにくく、形を整えるのが難しい。最後の仕上げは村の長老が高台に上って指示を出し、きれいな小判型に整えていく。完成した大わらじと大ぞうりは、神木にハシゴを使って吊され、その後、村人が一同に揃って、神事がとり行われる。

「わらじ作りは大変難しく、毎年四苦八苦しています。特に、わらじの下につける房の部分は村でも数人しか作ることができません。今後はこの技術をいかに次の世代へ伝えていくかが課題ですね」とは、田ノ口区長の吉田強さん。

最近稲の品種改良が進み、長いわらを確保するのにも一苦労しているそうだ。それでも、約400年は続いているという祭りは一度として途絶えたことはない。

そのいわれについての記録は一切残っていない、謎につつまれた祭り「大わらじ奉納」。しかしこの伝統と技術を幾年にも渡って継承してきた村人の思いは、真実として語り継がれていくことだろう。

協力：田ノ口区長 吉田強さん

きものって？

歩きづらい
トイレにいきづらい
締め付けられて苦しい

きものキレイ!!
だった私...



今はきもの大好き

楽な着付けで
長時間着ても大丈夫
歩き方、座り方、
階段の上り下り
トイレの行き方も
マスターしました

こんなに**楽**だったっけ？

答えは「きものサロンけいたに」にある！
10時間で着られる着付け教室もやっています

きものことなら
きものサロンけいたに

★着付け教室★きものマナー教室
★きものトータルコーディネート

豊岡市福田1丁目7-1 電話 24-0239
フリーダイヤル 0120-529-008